

江東区指定有形文化財(絵画)

紙本淡彩道祖神祭図 歌川広重筆 一幅

亀戸三―五七―二二 香取神社

道祖神祭図は、本紙を掛け軸に表装したものです。本紙は縦三三・六cm、横四〇・六cm。表装は縦一五八・〇cm、横四七・〇cmです。

香取神社の道祖神祭は、毎年正月一四日、氏子の子供たちが宝船をかつき、亀戸から両国の辺りまで練り歩いたもので、享保のころから始まり、明治初期まで続きました。その光景は『江戸名所図会』の挿し絵に載せられ、『東都歳事記』にも記載されています。本図は人物や宝船を墨で描き、朱、青で淡彩を施しています。作者は浮世絵師・歌川広重(一七九七―一八五八)で、嘉永五年(一八五二)以降、広重の円熟期に描かれた作品とみられます。

本図は、江戸時代の香取神社の古い行事の様子をよく伝え、作者が著名な広重であること、また戦災を免れて区内に伝えられたことなどから、貴重な作品といえます。

平成九年九月

江東区教育委員会

